

◎サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第07回 設問

下の各問いに解答しなさい。

問 01. 船積書類の内容として下の A～E から 3 つを選んだときに、最も適切な組合せを下の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。〔解答欄〕⇒〔 6 〕

A 送り状、B 為替手形、C 信用状、D 船荷証券、E 保険証券

〔選択肢〕

1 : ABC、2 : ABD、3 : ABE、4 : ACD、5 : ACE、6 : ADE、7 : BCD、8 : BCE、9 : CDE

問 02. 次の説明文は、日本から対外直接投資が行われる要因の一つである円高・賃金格差について説明したものである。それぞれの〔 〕に入る適切な数値を記入力しなさい（ネットで解答を入力する際は、数値は半角にするとともに、余計なピリオドやスペースを入れないこと。それらを入れると、正解として判断されません）。

〔説明文〕日本のパートの時給が 1200 円で、中国のそれが 40 元とする。 $\$1 = ¥120$ かつ $\$1 = \text{RMB}6$ であれば、 $\text{RMB}1 = ¥$ 〔 20 〕だから、日本企業からすれば、中国の時給は〔 800 〕円。 $\$1 = ¥60$ と円高になれば、 $\text{RMB}1 = ¥$ 〔 10 〕だから、中国の時給は〔 400 〕円と半分になる。日本企業としては、中国の労賃が日本のそれよりとても低いということになり、工場を日本国内から中国に移転するなどの動きが起きる。

◎サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第08回 設問

下の各問いに解答しなさい。

問 01. 外貨準備が増加するケースは、以下のどれか。選択肢から選び番号で答えなさい。

解答欄⇒〔 4 〕

〔選択肢〕

- 1：外国通貨の増価を嫌って、通貨当局が自国通貨の買介入をしたとき。
- 2：外国通貨の増価を嫌って、通貨当局が自国通貨の売介入をしたとき。
- 3：外国通貨の減価を嫌って、通貨当局が自国通貨の買介入をしたとき。
- 4：外国通貨の減価を嫌って、通貨当局が自国通貨の売介入をしたとき。

問 02. 外貨準備が減少するケースは、以下の選択肢のどれか。一つ選び番号で答えなさい。

解答欄⇒〔 4 〕

〔選択肢〕

- 1：自国通貨の増価を嫌って、通貨当局が外国通貨の売介入をしたとき。
- 2：自国通貨の増価を嫌って、通貨当局が外国通貨の買介入をしたとき。
- 3：自国通貨の減価を嫌って、通貨当局が自国通貨の売介入をしたとき。
- 4：自国通貨の減価を嫌って、通貨当局が自国通貨の買介入をしたとき。

問 03. 貿易収支の赤字が長期で続く国では、外貨準備が減少する傾向がある。その理由を説明した文として最も適切なものは、以下のどれか。選択肢から選び記号で解答しなさい。

解答欄⇒〔 4 〕

〔選択肢〕

- 1：経済成長を見込んで大量の資本流入があると、金融収支も黒字となるため、その国の為替市場には、大量に流入する外貨を売る民間銀行が多い状態になるため。
- 2：そうした国では、輸出による外貨の受取りが、輸入による外貨の支払いよりも多くなる。その結果、その国の外国為替市場で外貨売り・自国貨買いが、外貨買い・自国貨売りよりも多くなり、外貨を売りたい銀行としては、買い手が見つからずに、外貨を安くして出合いを付けようとする。それに対して、中央銀行がときおり、外貨買い・自国貨売りの市場介入をするから。
- 3：貿易収支の赤字が長期で続いているということは、財の輸入額が輸出額を上回っている、つまり海外から財を受け取る数より引き渡す数の方が少ないといえる。受け取る数の方が多

くなれば、決算するときはその分相手の国に支払う代金が増加し、それに伴い民間銀行が保有する外貨建ての資産も減少することになるため。

4：外貨の支払いのための外貨買い・自国貨売りが市場で多くなることに対して、通貨当局が外貨売りの介入をすることがあるため。

◎サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第09回 設問

下の各問いに解答しなさい。

問 01. ある靴の値段が日本で 240 円、同じ靴がアメリカで 2 ドルであるとする。この靴の購買力平価は、1 ドルあたり何円になるか。選択肢の中から一つ選んで、その記号で解答しなさい。解答欄⇒〔 (a) 〕

〔選択肢〕

(a) $240 \div 2$ 、(b) 240×2 、(c) $2 \div 240$ 、(d) $240 - 2$ 、(e) $240 + 2$

問 02. あるシャツの値段が日本で 2000 円、ドイツで 10 ユーロであるとする。このシャツの購買力平価は、1 ユーロあたり何円になるか。選択肢の中から一つ選んで、その記号で解答しなさい。解答欄⇒〔 (a) 〕

〔選択肢〕

(a) $2000 \div 10$ 、(b) 2000×10 、(c) $10 \div 2000$ 、(d) $2000 - 10$ 、(e) $2000 + 10$

問 03. あるワインの値段がアメリカで 12 ドル、フランスで 10 ユーロであるとする。このワインの購買力平価は、1 ユーロあたり何ドルになるか。選択肢の中から一つ選んで、その記号で解答しなさい。解答欄⇒〔 (c) 〕

〔選択肢〕

(a) $10 \div 12$ 、(b) 10×12 、(c) $12 \div 10$ 、(d) $12 - 10$ 、(e) $12 + 10$

問 04. 購買力平価説の説明として、次の各文が正しいければ 1、間違っていれば 2 を半角数字で解答（記入力）しなさい。

(a) 購買力平価説とは、二つの国の間で同一の財の値段が等しくなるように、為替レートが変動しながら平均するように調整されることである。解答欄⇒〔 2 〕

(b) 購買力平価説によると、物価が高くなった国の通貨のレートは、値上がりもしないし値下がりもしない。解答欄⇒〔 2 〕

(c) 1000 円を持っている人にとって、アメリカでも日本でも同一の財を同じ値段で買えるような為替レートは、購買力平価と等しいといえる。解答欄⇒〔 1 〕

(d) 日本である財の価格が 400 円、アメリカで 2 ドルであれば、この財の購買力平価は $\$1 = ¥200$ である。解答欄⇒〔 1 〕

問 05. 日本とアメリカそれぞれで、2015 年から 2019 年までに物価が下のように変化したと仮定する。

日本：3 パーセント上昇、アメリカ：2 パーセント上昇。

2015 年の円ドルレートは購買力平価と一致していて、 $\$1 = ¥ W$ であったとする。さらに、2019 年の為替レートは、 $\$1 = ¥ Z$ だったとすると、2019 年の（相対的）購買力平価はいくらになるか。式のままで、解答欄の〔 〕に解答しなさい。

解答欄⇒ $\$1 = ¥ [\quad W \times 1.03 \div 1.02 \quad]$ ※ 2019 年の為替レート Z は関係ない。

◎サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第10回 設問

下の各問いに解答しなさい。

問 01. 日本とアメリカの 2015 年の物価をそれぞれ 100 とすると、2019 年までに物価が下のように変化したと仮定する（矢印の左側が 2015 年、右側が 2019 年）。

日本：100 ⇒ 90、アメリカ：100 ⇒ 105

2015 年の円ドルレートは購買力平価と一致していて、 $\$1 = ¥120$ であったとする。さらに、2019 年の為替レートは、 $\$1 = ¥110$ だったとすると、2019 年の購買力平価はいくらになるか。式のままで解答しなさい。

解答欄⇒ [$120 \times 0.9 / 1.05$]

問 02. 最初に購買力平価説が成り立つと前提する。そして、ある財 A の価格がアメリカで 40 ドル、ベトナムで 20,000 ドンであると仮定する。そして、実際の為替レートは、 $\$1 = \text{VND } 1,000$ であるとする。このとき、アメリカとベトナムでの財 A の貿易はどのように展開し、次に、ドルとベトナム・ドンの為替レートが、いくりに収れんしていくのかを説明した文章として、正しいものはどれか。下の選択肢から一つを選び、その記号で解答しなさい。

解答欄⇒ [(a)]

〔選択肢〕

- (a) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル高・ドン安なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも高く、ベトナムの対米貿易黒字となる。その結果、長期的には、ドル安・ドン高となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。
- (b) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル安・ドン高なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも高く、ベトナムの対米貿易黒字となる。その結果、長期的には、ドル高・ドン安となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。
- (c) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル高・ドン安なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも低く、ベトナムの対米貿易赤字となる。その結果、長期的には、ドル安・ドン高となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。
- (d) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル安・ドン高なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも低く、ベトナムの対米貿易赤字となる。その結果、長期的

には、ドル高・ドン安となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。

- (e) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル高・ドン安なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも高く、ベトナムの対米貿易黒字となる。その結果、長期的には、ドル高・ドン安となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。
- (f) 購買力平価よりも実際の為替レートがドル安・ドン高なので、ベトナムの財 A の国際競争力はアメリカのそれよりも低く、ベトナムの対米貿易赤字となる。その結果、長期的には、ドル安・ドン高となり、為替レートは購買力平価とほぼ等しい、 $\$1 = \text{VND } 500$ に収れんしてゆく。